

土浦市のイメージアップ戦略として、JR土浦駅東口並びに西口の名称を変更することについて



篠塚昌毅 議員

**質問** 牛久市では、観光と商業の活性化を目的として、牛久駅東西出入り口の愛称名を公募し、平成20年に東口を「シャトー口」、西口を「かっぱ口」に変更したとのことである。本市でも平成19年、土浦青年会議所において、土浦駅東口を「霞ヶ浦口」に名称変更を求める署名運動が行われていたことから、イメージアップ戦略として取り上げてはいかがか。

**市長** 現在のJR土浦駅は、西口はウララや駅前商店街、亀城公園、まちかど蔵方面の玄関口として、東口はマリィナ、釣り客、かすみがうらマラソン等、霞ヶ浦方面の玄関口として、まさに本市の顔になっている。駅出入り口の愛称化は、来訪者へのPRと、まちのイメージアップ、市民のまちへの愛着を高める効果があると考えられることから、

周辺住民や商店街等を始めとし、市民の皆さまの機運を高めながら、実施に向けての検討をしてみたい。

**(掲載以外の質問事項)**  
二 JR荒川沖駅、東西駅前広場の朝夕の混雑時における安全対策を調査・検討した結果について



土浦駅東口

**霞ヶ浦医療センターに、どのような支援が考えられるか**



柏村忠志 議員

**質問** 霞ヶ浦医療センターは、市内の開業医との連携を強める地域医療支援病院とし

て位置付けられ、地域医療のネットワークの核となっているものの、必要な医師を招へいすることができず、地元の不安心配は日を追って高まっている。本市の中核病院として霞ヶ浦医療センターを育て強化するために、どのような支援が考えられるか何う。

**副市長** 霞ヶ浦医療センターは、他の医療機関からの、紹介患者への医療提供や、医療機器等の共同利用を通じてかかりつけ医を支援するなど、地域医療の円滑化を図るための地域医療支援病院として、土浦保健医療圏では唯一県より認定されている。今後本市の中核病院として大変重要な病院であると認識していることから、国、県への要望を検討し、また市としてもどのような支援策があるのか、霞ヶ浦医療センターの意向も伺いながら、土浦市医師会、関係機関と連携し、検討してみたい。

**市立図書館の休館日の短縮について**



荒井 武 議員

**質問** 市内の方から、図書館の休館日が多く、利用日をぜひ広げてほしいとの要望があった。現在のこうした経済状況の中では図書館を利用する人が多くなると考えられることから、年末年始、ゴールデンウィーク等、連休の休館日短縮について何う。

**次長(教育)** 本市では、平成17年度から平日の本館の閉館時刻を午後5時から7時に延長するなど、仕事帰りの方や学校帰りの学生等への利便性を高め、サービス向上に努めている。休館日の短縮については、利用者サービスの重要課題と考えていることから、本館の休館日を原則2日以上連続させないよう、開館日の拡大を試行してみたい。また、年末年始の休館日については、貸出冊数を通常の6冊から増やすことや、通常15日間の貸出期間を延長するなど



市立図書館

**消費増税について、市長の見解を問う**



古沢喜幸 議員

**質問** 消費増税について、全国の新聞、あるいはテレビのコメンテーターは、消費増税は必至という論調であるが、収入の低い世帯ほど負担割合が高くなり、低所得者に対してはまさに生活破壊型税制である。消費増税について、市長の見解を何う。

**市長** 消費増税は、消費に対して課税されることから、低

